

施工手順 (鋼製束 ステップ① L1.1～L7.7 木製大引用)

この「施工手順書」は、施工者の方用に、基本的な手順・注意事項をまとめたものです。
施工される現場の状況により、条件等が変わる可能性があります。ご不明な点があれば、お問い合わせ下さい。

① 材料の確認



設置場所・設計図面に合せて材料をご用意下さい。

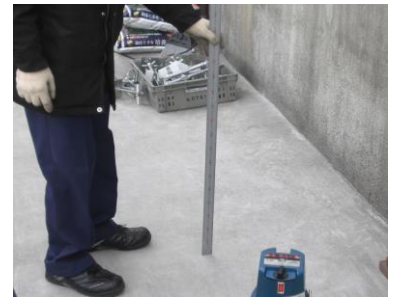
② 根太位置の墨出し



床面に根太位置の墨出し※¹をします。

※¹墨出し・・・工事中に必要な線や位置などを床や壁に表示する作業。

③ 現場の勾配確認



水勾配が有る場合は、事前に測定を行い、設計図面通りかを確認します。
(選定した鋼製束の調整範囲内であることを確認しておきます。)

④ 大引の切断(必要な場合)

(⑦と⑧の間など順序は臨機応変に)



必要寸法を罫書き※²して根太を切断します。

※²罫書き・・・材料に線や目印を描き、(けがき) 穴あけの位置を決めたり切り出しやボルトの位置を決める(記入する)作業。

⑤ 大引に罫書き



大引の底面

大引に鋼製束の受プレート取付け位置の罫書きを行います。

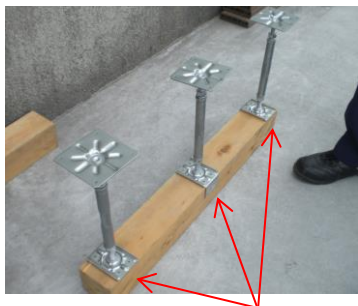
木製大引の下からネジ止めを行いますので、大引の底面に束位置を記しておきます。

⑥ 大引の取付け準備



鋼製束と大引をネジ止めしていく前に、大引の両端に取付ける鋼製束の高さを、設計束高さに合わせておきます。
(状況により大引取付け後でも可)
(本締めは未だ行いません。)

⑦ 大引の取付け



千鳥(交互)に設置

裏がえした大引に逆にした鋼製束を⑤の罫書きの目印に合せ仮置きします。

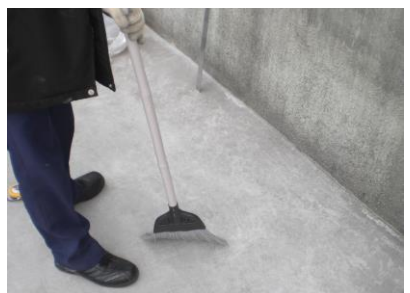
鋼製束がL型の場合、大引に対して「千鳥」に設置して下さい。



木ねじ・コーススレッド等で受具の4穴全てを「ネジ止め」していきます。
(釘類は強度不足の為、不可)

L型の立上がりプレート²の2穴について横からの「ネジ止め」は通常不要です。

⑧ 床清掃



鋼製束を設置する床面の周囲をあらかじめ清掃し、ゴミ・ホコリ等を除去しておきます。

②の根太位置の墨出し線を消さない様に注意して下さい。

施工手順 (鋼製束 ステップ① L1.1~L7.7 木製大引用)

⑨ 鋼製束の高さ調整

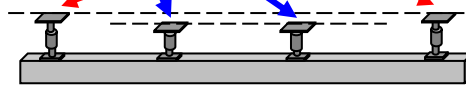


大引の両端の鋼製束は設計高さに合せ、内部側の鋼製束はそれより少し低い目にしておきます。

⑥で両端の高さを合せている場合は内部側のみ調整します。



両端の鋼製束より低い位置
設計レベル(高さ)



⑩ 接着剤の塗布



全ての鋼製束のベース裏面にボンド「束職人」を約20g塗布します。

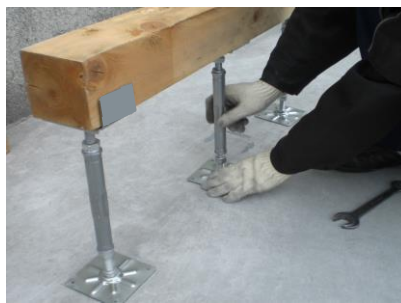
【屋内・床下用接着剤 推奨品】
ボンド「束職人」(コニシ製)

⑪ 接着剤で貼付け(両端)



大引の両端の鋼製束のベース面を床面にしっかり接地させ、接着剤が外周部から少しハミ出すくらいに広めになじむ様に押し付けて下さい。

⑫ 接着剤で貼付け(内部側)



内部側の鋼製束のパイプを回して高さを合せ、⑪と同様に、ベース面を床面に接地させ、接着する。

パイプでの調整 時計(右)回り:高くなる
反時計(左)回り:低くなる

⑬ コンクリート釘で釘打ち



接着剤による浮き上がり防止・養生までの固定補助の為、コンクリート釘を任意の対角に2本打ちます。

釘サイズ: #12×25または19
(釘を打てない場合は養生期間をとる)

⑭ レベル確認



鋼製束の本締め前にレベル確認を行います。

鋼製束の高さを微調整する場合は水平器を大引に置いて確認しながらパイプを回して行います。(水系でも可)

パイプでの調整 時計(右)回り:高くなる
反時計(左)回り:低くなる

⑮ 鋼製束の本締め



レベル確認が完了し、鋼製束の高さが決まれば、上下の六角ナットを本締めします。

写真の様に水平器を置き、水平を保持したところで本締めします。
(21mmスパナ2本でパイプの角付け部を一方で押えつつ、もう一方で上下のそれぞれの六角ナットを締めます。)
本締めの際は必ず工具をご使用下さい。

⑯ 最終確認



最終のレベル確認を行います。鋼製束の本締めが全て出来ている事も確認して置いて下さい。

以上で「床下地材(鋼製束・大引)の据付けは終了です。

床材の施工は、別途、各施工手順に基づき施工して下さい。